

上中居・西屋敷遺跡 4

－ 複合施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 －

2012

高崎市教育委員会
技研測量設計株式会社

例 言

1. 本書は複合施設建設に伴う「上中居・西屋敷遺跡」第4次調査（市遺跡調査番号 541）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査から報告書刊行に至るまでの一連の作業は、堀田正一氏・堀田二三子氏の費用負担によって実施された。記して感謝の意を申し上げます。
3. 本調査および整理作業は高崎市教育委員会文化財保護課の監理指導のもと、技研測量設計株式会社が実施した。
4. 発掘調査および整理作業の体制は下記のとおりである。

遺跡所在地 群馬県高崎市上中居町字西屋敷 225 - 1、225 - 5

監理指導 田口一郎・瀧澤 匡（高崎市教育委員会）

調査担当 山田誠司（技研測量設計株式会社）

発掘調査期間 平成 24 年 5 月 31 日～7 月 20 日

整理作業期間 平成 24 年 7 月 23 日～9 月 28 日

調査面積 552 m²

発掘調査参加者 会田 彰 会田義之 井上ゆかり 内嶋勝義 女屋みどり 小見 勇 坂口 昇
須藤恭子 竹内正行 田部井美砂子 間庭啓治 吉田三枝子

整理作業参加者 大川明子 福島禄子

5. 本書の編集は山田が行い、執筆は第1章を高崎市教育委員会文化財保護課が、他を山田が行った。
6. 発掘調査で出土した遺物および図面等の資料は、一括して高崎市教育委員会では保管されている。
7. 発掘調査および報告書の作成にあたり、下記の機関に御協力を賜った。記して謝意を表します。（敬称略）
株式会社造家建設 山下工業株式会社

凡 例

1. 全体図および遺構平面図に示した方位は北に座標北を表し、座標については世界測地系に基づく平面直角座標第Ⅸ系を使用している。本文および図中では下三桁を表記している。
2. 挿図に国土地理院発行 1/25,000『高崎』『前橋』、高崎市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。
3. 土層および遺物の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修）に拠る。
4. 遺構表示の記号は、土坑：SK、溝：SD、ピット：PT、井戸：SE とした。
5. 掲載図面の縮尺は、全体図は 1/200、遺構個別の平面図および断面図は 1/60 を基本とし、それ以外のものについては右下にスケールを示した。
6. 遺物実測図および拓影図の縮尺は、1/3 を基本として大型の土器については 1/4 とし、それ以外のものについては右下にスケールを示した。
7. 本文および表中の計測値については〔 〕は現存値を、（ ）は復元値を表す。
8. 遺物写真図版は、1/3 に近づけるように撮影を行い、それ以外のものについては右下に（ ）で示した。
9. 遺物実測図、遺構図のトーン表現は以下の通りである。

須恵器  石器磨面  釉薬 

10. 主な火山灰降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-A（浅間 A 軽石：1783）、As-B（浅間 B 軽石：1108）、As-C（浅間 C 軽石：3 世紀後葉～4 世紀前半）
Hr-FA（榛名ニッ岳渋川テフラ：6 世紀初頭）、Hr-FP（榛名ニッ岳伊香保テフラ：6 世紀中葉）

目 次

例言・凡例

I	調査に至る経緯	1
II	遺跡の位置と環境	1
III	調査の方針と経過	2
IV	基本層序	3
V	遺構と遺物	5
VI	まとめ	17

挿図目次

第1図	周辺遺跡図	2
第2図	遺跡位置図	3
第3図	基本層序	3
第4図	調査区全体図	4
第5図	SD01・04・05・06・07平面・断面図	8
第6図	SD02平面・断面図	9
第7図	SD03・09・10平面・断面図	10
第8図	SD08平面・断面図	11
第9図	SK01～13平面・断面図	12
第10図	As-A処理坑、SE・PT平面・断面図	13
第11図	SD01・02・03・08出土遺物	14
第12図	SK07～09・13、SE02出土遺物	15

表目次

第1表	土坑・As-A処理坑・井戸・ピット計測	7
第2表	出土遺物観察表	16

写真図版目次

PL.1	調査区全景
PL.2	SD02全景 SD03全景
PL.3	SD08全景 SD08底部近景
PL.4	SD01・04・05・06・07・09全景 SD10全景
PL.5	As-A処理坑 As-A処理坑土層断面 SE01全景 SE02全景 SE03全景 SK01全景 SK02全景 SK03全景
PL.6	SK04全景 SK05全景 SK06全景 SK07全景 SK07・08全景 SK07・08土層断面 SK09・10全景 SK09・10土層断面
PL.7	SK11全景 SK12全景 SK13全景 SK13遺物出土状況 基本土層A 基本土層B 作業風景
PL.8	出土遺物写真

I 調査に至る経緯

平成 23 年 12 月、堀田正一・堀田二三子氏（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に複合施設建設予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、照会地が埋蔵文化財包蔵地であり、上中居地区区画整理事業や街路整備の事前調査により弥生～中近世に至る集落跡や館等が調査されており、当該地にも及ぶ可能性が高いことから、試掘調査による確認を実施し工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年 12 月 12 日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は調査条件が整った平成 24 年 4 月 10 日に工事予定地の試掘調査を実施し、古墳～中近世の遺構を確認した。

試掘結果を受けて埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、計画変更は不可能ということなので、施設建設部分に関して記録保存の発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、技研測量設計株式会社に委託して実施することとなり、平成 24 年 5 月 18 日付けで高崎市長・事業者・技研測量設計株式会社の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成 24 年 5 月 21 日付けで事業者と技研測量設計株式会社の二者で発掘調査委託契約が締結された。

II 遺跡の位置と環境

本遺跡の周辺では、市街地区の再開発に伴い遺跡調査は増加しているものの、旧石器時代の遺跡はこれまでに確認されていない。縄文時代の遺跡に関しては、烏川南西部に位置する観音山丘陵や河川の段丘上に分布している。周辺では上中居遺跡群（66）、高関村前遺跡（15）、高関東沖・村前遺跡（19）、高関高根遺跡（20）等が挙げられるが、遺構としては下中居条里遺跡で中期後半の竪穴住居跡 1 軒、土坑 5 基が確認されたのみで、他は中期～後期の土器、石器が出土する程度であり、断片的な資料である。

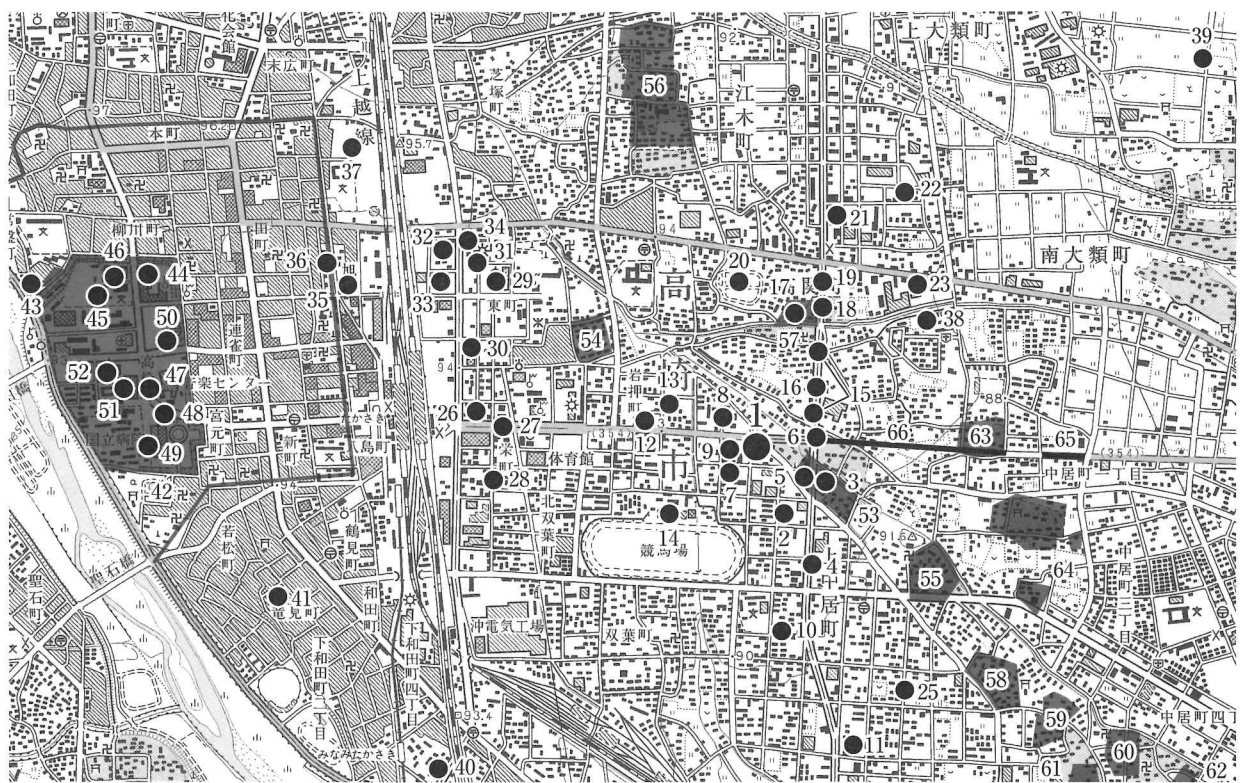
弥生時代の遺跡は、烏川左岸段丘上に土器型式の指標遺跡として著名な竜見町遺跡（41）や高崎城Ⅴ・Ⅵ遺跡（48）、城南小学校校庭遺跡が、烏川と井野川に挟まれた台地上の微高地には高崎競馬場遺跡（14）、高関村前遺跡、高関堰村遺跡（18）、高関高根遺跡、高関東沖・村前遺跡等が知られている。これらの多くは中期～後期の遺物包蔵地、もしくは集落遺跡であり、生産遺跡は確認されていない。

古墳時代では、集落遺跡は前時代と同様に、烏川左岸段丘上や烏川と井野川に挟まれた台地上の微高地に多く立地しており、上中居辻薬師Ⅱ遺跡（6）、新後閑遺跡（40）、高崎城Ⅲ・Ⅳ遺跡（47）、高崎城Ⅴ・Ⅵ遺跡、高関高根遺跡、高関東沖・村前遺跡、高関村前遺跡等が挙げられる。生産遺跡としては東町Ⅲ遺跡（31）において As-C に覆われた水田跡と、Hr-FA・Hr-FP を含む洪水層に覆われた水田跡が、高関東沖・村前遺跡では後期の畠跡が確認されている。上中居辻薬師Ⅱ遺跡、中居町一丁目遺跡（65）、上中居遺跡群では方形周溝墓が確認されている。古墳は 5 世紀後半築造と推定される越後塚古墳（25）、5 世紀後半～6 世紀前半築造とされる聖天山古墳、6 世紀後半の井野川中流域における中核をなす首長墓と考えられている五霊神社古墳、浜尻天王山古墳等が周辺に所在する。なお、上中居遺跡群中での上中居辻薬師遺跡 5 次調査において、古墳時代中期とされる 7 号溝から勾玉・管玉と共に、上方作系浮彫式獣帯鏡と考えられる破鏡が出土しており、周辺遺跡との関連性が注目されている。

奈良・平安時代になると、律令制に伴い条里地割に基づく大規模な耕地開発が行われた。本遺跡周辺においても上中居平塚Ⅱ遺跡（8）、高関北沖遺跡（21）、高関塚田遺跡（22）、岡久保遺跡（38）等数多くの遺跡で As-B に覆われた水田跡が確認されている。集落も近辺の微高地に営まれ、高崎城Ⅲ・Ⅳ遺跡、高崎城Ⅴ・Ⅵ遺跡、高崎城Ⅶ遺跡（49）、高関村前遺跡、高関高根遺跡、新後閑寺廻遺跡、新後閑遺跡等で当該期の住居跡等が確認されている。

中世には微高地上に城館・環濠屋敷が築かれる。高崎市域の武士としては寺尾・山名・倉賀野・綿貫・嶋名・和田・長野の各氏が挙げられる。本遺跡周辺は和田・反町氏の領域に含まれ、両氏に関係する遺構が地獄堰、矢中堰に沿うように分布する。高関屋敷(57)は、「高崎近郷村々百姓由緒書」によると角田氏は和田氏の一族で天正十八年(1590)、小田原落城による和田氏の没落に伴い、角田主水が高関へ移ったとされる。高関高根遺跡では大型区画溝や土坑・井戸が、高関堰村遺跡、高関村前遺跡、高関村前Ⅱ遺跡(16)では環濠屋敷跡が、上中居辻薬師遺跡(5)、上中居辻薬師Ⅱ遺跡では「反町城」といわれる中世居館跡が確認されている。尚、灌漑水路である長野堰水系は、中世末期に長野氏がその基礎を整備したという伝承がある。

近世になると慶長三年(1598)、井伊直政が箕輪城から高崎城へと拠点を移したことにより城下町が形成される。現在のJ R高崎駅西口周辺を中心に町屋や社寺が建ち並び、また、中山道と三国街道が走る交通の要衝でもあり宿場町としても繁栄する。周辺では高関堰村遺跡で掘立柱建物等が、上中居辻薬師遺跡、上中居辻薬師Ⅱ遺跡では中世から継続する居館の一部が調査されている。



1. 上中居・西屋敷遺跡(本調査地点) 2. 上中居西屋敷遺跡 3. 上中居西屋敷Ⅱ遺跡 4. 上中居西屋敷Ⅲ遺跡 5. 上中居辻薬師Ⅱ遺跡 6. 上中居辻薬師Ⅰ遺跡 7. 上中居平塚Ⅰ遺跡 8. 上中居平塚Ⅱ遺跡 9. 上中居平塚Ⅲ遺跡 10. 上中居荒神Ⅰ遺跡 11. 上中居島薬師遺跡 12. 岩押町Ⅰ遺跡 13. 岩押町Ⅱ遺跡 14. 高崎競馬場遺跡 15. 高関村前遺跡 16. 高関村前Ⅱ遺跡 17. 高関・堰村遺跡 18. 高関堰村遺跡 19. 高関東沖・村前遺跡 20. 高関高根遺跡 21. 高関北沖遺跡 22. 高関塚田遺跡 23. 高関東沖Ⅱ遺跡 24. 上中居遺跡群2 25. 越後塚古墳 26. 栄町Ⅰ遺跡 27. 栄町Ⅱ遺跡 28. 栄町Ⅲ遺跡 29. 東町Ⅰ遺跡 30. 東町Ⅱ遺跡 31. 東町Ⅲ遺跡 32. 東町Ⅳ遺跡 33. 東町Ⅴ遺跡 34. 東町Ⅵ遺跡 35. 旭町Ⅰ遺跡 36. 真町Ⅰ遺跡 37. 江木諏訪西遺跡 38. 岡久保遺跡 39. 宿大類村西遺跡 40. 新後閑遺跡 41. 竜見町遺跡 42. 高崎城遺跡 43. 高松町遺跡 44. 高松第1駐車場遺跡 45. 高崎城Ⅰ遺跡 46. 高崎城Ⅱ遺跡 47. 高崎城Ⅲ・Ⅳ遺跡 48. 高崎城Ⅴ・Ⅵ遺跡 49. 高崎城Ⅶ 50. 高崎城Ⅷ 51. 高崎城Ⅸ 52. 高崎城Ⅹ 53. 反町城 54. 岡田屋敷 55. 新堀砦 56. 江木環濠遺構 57. 高関屋敷 58. 下中居新井屋敷 59. 高尾屋敷 60. 下中居佐藤屋敷 61. 下中居福田屋敷 62. 道場屋敷 63. 丸茂屋敷 64. 宇名室環濠遺構 65. 中居町一丁目遺跡 66. 上中居遺跡群

第1図 周辺遺跡図(1/25,000)

Ⅲ 調査の方法と経過

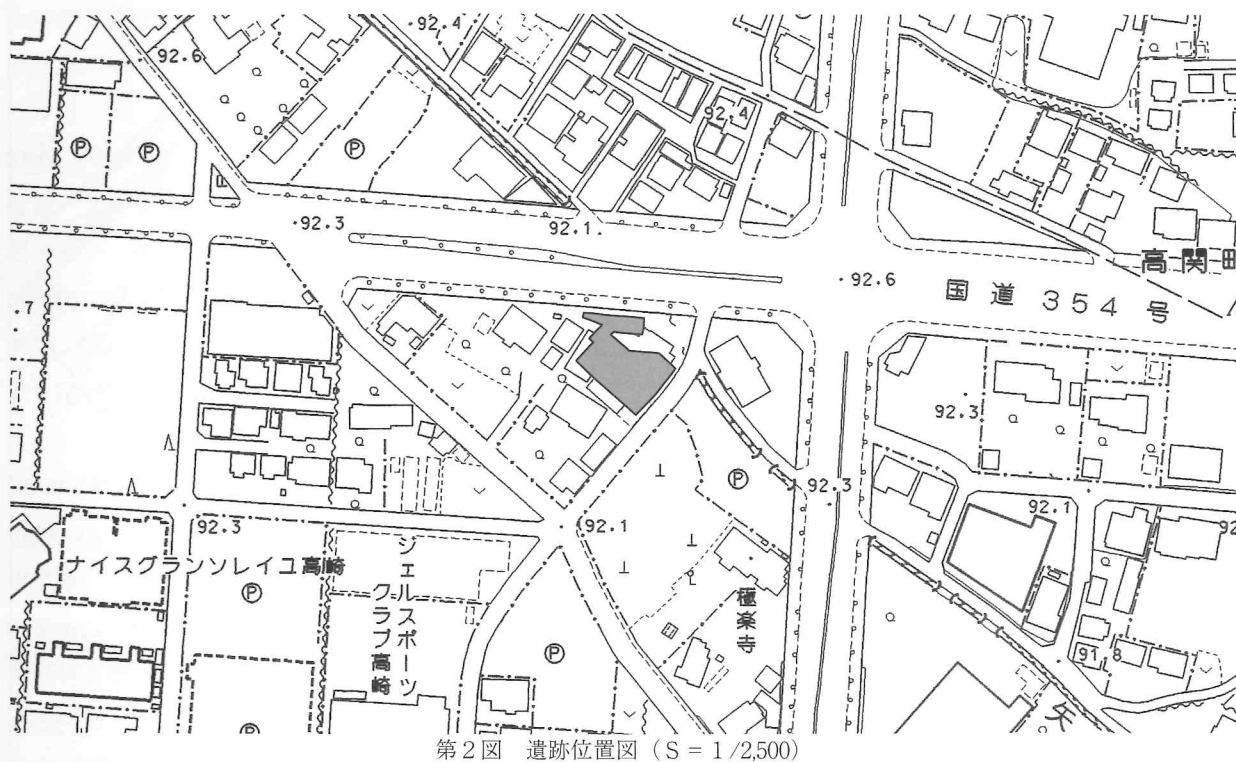
今回の発掘調査は試掘調査の結果から、現状保存が不可能な複合施設建設に伴う建物部分を該当個所として行い、面積は約552㎡である。座標は世界測地系に基づく平面直角座標第Ⅸ系を使用している。

発掘調査は廃土の関係から調査区を南北に分けた折り返し調査とし、平成24年5月31日より調査区北側から

開始した。表土掘削には0.45バックフォアを使用し、試掘調査の結果を参考に実施した。重機による表土掘削と併行して遺構確認作業を進め、検出した遺構は順次掘り下げ、精査、写真撮影、遺物取り上げ、測量を行った。8月25日に調査区北側でのラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行い、8月27日から埋め戻しおよび調査区南側の表土掘削を開始した。調査区南側では大規模な溝の検出もあり、遺構の掘り下げに時間を要したが、7月17日に空中写真撮影を実施し、7月20日に現地での発掘調査を終了することができた。

検出した遺構の図化については電子平板を用いた平面図の測量・編集、断面図は現地で撮影した画像から、座標を保持したオルソフォトに変換して編集を行った。遺構の写真記録については35mmモノクロフィルム、35mmリバーサルフィルム、デジタルカメラの3種を併用して撮影した。

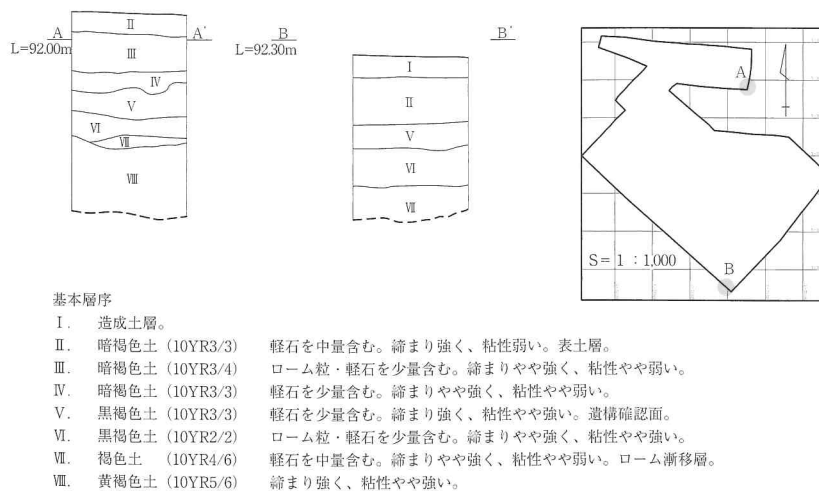
報告書作成作業は、現地調査終了後に開始した。作業にあたってはDTPを用いて、本文・遺構図面・写真図版にわたる全ての作業をパソコン上でのデジタル編集によって報告書を作成した。



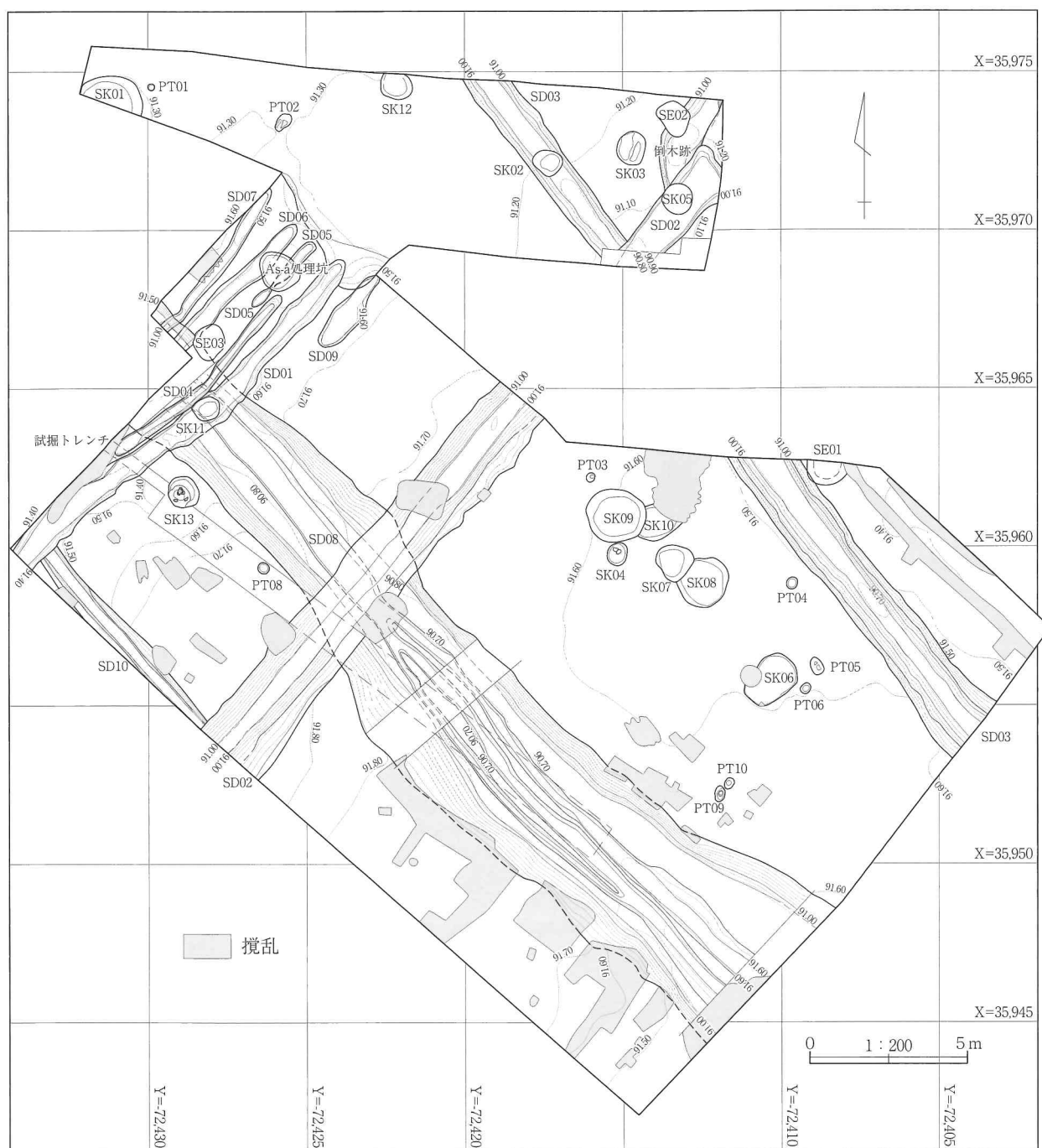
第2図 遺跡位置図 (S = 1/2,500)

IV 基本層序

今回の調査では調査区北東の東壁（基本層序A）、調査区南東の南壁（基本層序B）の2箇所において、基本層序の確認を行った（第3図、PL. 7）。表土層以下の堆積は各面でやや異なるが、遺構確認面は黒褐色土を主とするV層である。なお、調査区北側ではVI層を遺構確認面として調査を行っている。



第3図 基本層序



第4図 調査区全体図

V 遺構と遺物

1. 調査概要 (第4図、PL. 1)

今回の発掘調査では、溝10条、土坑13基・As-A処理坑1基、井戸3基、ピット9口を検出した。遺構の時期は、古墳時代・古代を一部含むが、中世・近世を主体とする。遺物は縄文土器、土師器、須恵器、石製品、中世・近世の陶磁器類が出土している。

2. 遺構・遺物

(1) 溝 (第4図、PL. 2～4・8)

溝は10条を検出している。北東から南西への走行方向を示すものが7条、北西から南東への走行方向を示すものが3条である。それぞれ土師器、陶磁器類が出土している。なお、SD04～07・09は断面の形状・深さ等から畝の畝になる可能性も考えられるが、今回は溝として取り扱っている。

SD01 (第5・11図、PL. 4・8)

位置 X = 959～969、Y = 424～434 重複 SD08・10、SK11と重複し、SK11に先行し、SD08・10より後出する。 走行方向 N - 40° - E ~ N - 52° - E。 規模 検出長13.86 m、上幅0.60 m～0.90 m、下幅0.24～0.66 m、深さ0.58 m。 形状等 北東から南西へ走行し、調査区外へ続く。断面は台形状を呈する。 出土遺物 破片数で縄文土器4点、土師器42点、近世陶磁器16点であり、磁器碗1点、陶器碗1点、瓦器・焙烙1点を図示している。 時期 遺構の重複関係および出土遺物から、開鑿は近世以降と想定される。

SD02 (第6・11図、PL. 2・8)

位置 X = 953～972、Y = 412～428 重複 SD03・08、SK05と重複し、SK05に先行し、SD03・08より後出する。 走行方向 N - 40° - E。 規模 検出長2.42 m、上幅1.96 m～2.37 m、下幅0.40～0.67 m、深さ0.79 m。 形状等 北東から南西へ走行し、北西側では南東方向にL字に折れ曲がり、調査区外へ続く。断面は台形状及び部分的に緩やかなV字状を呈する。 出土遺物 破片数で縄文土器2点、土師器22点、かわらけ2点、古銭1点、石製品1点、近世陶磁器多数であり、図示した資料は覆土から出土した縄文土器1点、かわらけ2点、古銭1点、石臼1点を図示している。 時期 遺構の重複関係および出土遺物から、開鑿は中世以降と想定され、規模・形状から南西に位置する反町城の濠の一部の可能性が指摘できる。

SD03 (第7・11図、PL. 2)

位置 X = 953～974、Y = 402～420 重複 SD02、SK02、SK01と重複し、いずれの遺構よりも先行する。 走行方向 N - 38° - W。 規模 検出長26.44 m、上幅1.62 m～2.51 m、下幅0.37～0.68 m、深さ0.83 m。 形状等 北西から南東へ走行し、調査区外へ続く。断面はU字状を呈し、一部中段を持つ。細粒砂の堆積が認められ、湛水の痕跡と考えられる。 出土遺物 なし 時期 出土遺物がなく判然としないが、後述するSD08の覆土と酷似しており、最終的な埋没は中近世と想定される。

SD04 (第5図、PL. 4・8)

位置 X = 953～967、Y = 424～431 重複 SD08と重複し、SD08より後出する。 走行方向 N - 40° - E ~ N - 54° - E。 規模 検出長7.18 m、上幅0.27 m～0.38 m、下幅0.14～0.20 m、深さ0.44 m。 形状等 北東から南西へ走行し、断面はU字状を呈する。 出土遺物 破片数で縄文土器1点、土師器2点、須恵器1、

陶磁器類2点であり、図示し得た資料は天目茶碗1点である。 時期 遺構の重複関係および出土遺物から近世以降と想定される。

SD05 (第5図、PL. 4)

位置 X = 967 ~ 969、Y = 424 ~ 426 重複 As-A 処理坑と重複し、先行する。 走行方向 N - 45° - E。

規模 検出長 2.78 m、上幅 0.11 m ~ 0.38 m、下幅 0.04 ~ 0.25 m、深さ 0.13 m。 形状等 北東から南西へ走行し、断面は浅いU字状を呈する。 出土遺物 破片数で土師器1点であり、小破片のため図示し得なかった。

時期 遺構の重複関係および出土遺物から近世以降 (1783 年以前) と想定される。

SD06 (第5図、PL. 4)

位置 X = 967 ~ 970、Y = 425 ~ 428 重複 SD08、As-A 処理坑、SE03 と重複する。As-A 処理坑、SE03 に先行し、SD08 より後出する。 走行方向 N - 45° - E。 規模 検出長 4.73 m、上幅 0.50 m ~ 0.56 m、下幅 0.38 ~ 0.43 m、深さ 0.15 m。 形状等 北東から南西へ走行し、断面は浅い台形状を呈する。 出土遺物 破片数で土師器5点であり、小破片のため図示し得なかった。 時期 遺構の重複関係および出土遺物から近世以降 (1783 年以前) と想定される。

SD07 (第5図、PL. 4)

位置 X = 967 ~ 972、Y = 425 ~ 428 重複 SD08 と重複し、後出する。 走行方向 N - 36° - E。 規模

検出長 5.1 m、上幅 0.26 m ~ 0.41 m、下幅 0.12 ~ 0.33 m、深さ 0.14 m。 形状等 北東から南西へ走行し、断面は浅いV字状を呈する。 出土遺物 破片数で縄文土器2点であるが、覆土上層からの出土で、埋没過程での流れ込みと考えられる。 時期 遺構の重複関係および出土遺物から近世以降と想定される。

SD08 (第8・11図、PL. 3・8)

位置 X = 944 ~ 967、Y = 407 ~ 431 重複 SD01・02・04、SK11、SE03 と重複し、いずれの遺構よりも先行する。 走行方向 N - 43° - W。 規模 検出長 28.75 m、上幅 2.94 m ~ 5.84 m、下幅 1.54 ~ 4.74 m、深さ 0.95 m。 形状等 北西から南東へ走行し、SD03 と類似する細粒砂の堆積が認められ、湛水の痕跡と考えられる。土層の堆積状況及び底面の形状等から、当遺構の開鑿については3段階に分けることができる。初期段階は断面箱型の小規模な溝が2乃至3条、中段階において断面がやや不整形な台形状を呈する溝、最終段階において断面が台形状を呈する溝の、3段階での掘削が想定される。なお、出土遺物においても各段階での時期差が見られ、最下層では7世紀代の土師器坏が、上層では中世・近世の染付皿等が出土しており、古代から中世・近世に亘り機能していたことが考えられる。 出土遺物 破片数で土師器55点、須恵器4点、陶磁器類6点であり、土師器坏3点、土師器高坏1点、須恵器坏2点を図示した。 時期 遺構の重複関係および出土遺物から最終的な埋没時期は近世と想定されるが、開鑿時期としては古代まで遡る可能性も考えられる。

SD09 (第7図、PL. 4)

位置 X = 967 ~ 968、Y = 422 ~ 424 重複 なし。 走行方向 N - 35° - E。 規模 検出長 2.80 m、上幅 0.42 m ~ 0.9 m、下幅 0.33 ~ 0.76 m、深さ 0.2 m。 形状等 北東から南西へ走行し、断面は不整形なV字状を呈する。 出土遺物 なし。 時期 遺構の覆土から近世以降と想定される。

SD10 (第7図、PL. 4)

位置 X = 954 ~ 959、Y = 428 ~ 434 重複 SD01と重複し、先行する。 走行方向 N - 41° - W。 規模 検出長 7.32 m、上幅 0.57 m ~ 0.75 m、下幅 0.31 ~ 0.37 m、深さ 0.51 m。 形状等 北西から南東へ走行し、断面はU字状を呈する。 出土遺物 破片数で土師器 16 点、陶器碗 1 点であるが、小破片のため図示し得なかった。 時期 遺構の重複関係および出土遺物から近世以降と想定される。

(2) 土坑・As-A 処理坑 (第9・10・12図、PL. 5 ~ 8)

土坑を 13 基、As-A 処理坑を 1 基であるが検出している。As-A 処理坑は平面楕円形を呈し、As-A 軽石のみの堆積が認められる (PL. 5)。土坑は円形・不整楕円形を中心とする平面形態を呈する。特に SK13 において、S 字口縁甕と土師器甕が出土しており、遺物から古墳時代前期末から中期前半の時期を想定できる。出土遺物から確実に古代以前に遡ると思われる遺構は SK13 のみであるが、SK01 は出土遺物がないものの、SK13 と酷似する黒褐及び暗褐色土の覆土が見られ、同様の時期を想定できる。なお、SK01・SK13 以外は、肥前系染付碗・瀬戸美濃陶器類を中心とする出土遺物が主となり、SK08・SK09 からはそれらに伴う形で寛永通寶が出土しており、当遺跡の主要時期を示すものとなる。

各遺構の詳細については計測表 (第 1 表) に記載しているので参照されたい。

(3) 井戸 (第10・12図、PL. 5・8)

今回の調査では井戸を 3 基、検出している。いずれも平面は円形を呈する。いずれも確認面から 50 cm 程を掘り下げた段階で多量の湧水が見られ、調査区壁に近いこともあり安全面を考慮し 1 m 前後の掘り下げで停止している。出土遺物については SE01 からはなく、SE03 は土師器甕の小破片が 1 点のみである。SE02 からは陶磁器類を中心とした遺物を検出しており、そのうち肥前系染付碗、美濃錆釉徳利等を図示している。なお、4 は型押しによる鳥型土製品であるが、詳細な種類については判然としていない。

各遺構の詳細については計測表 (第 1 表) に記載しているので参照されたい。

(4) ピット (第10図)

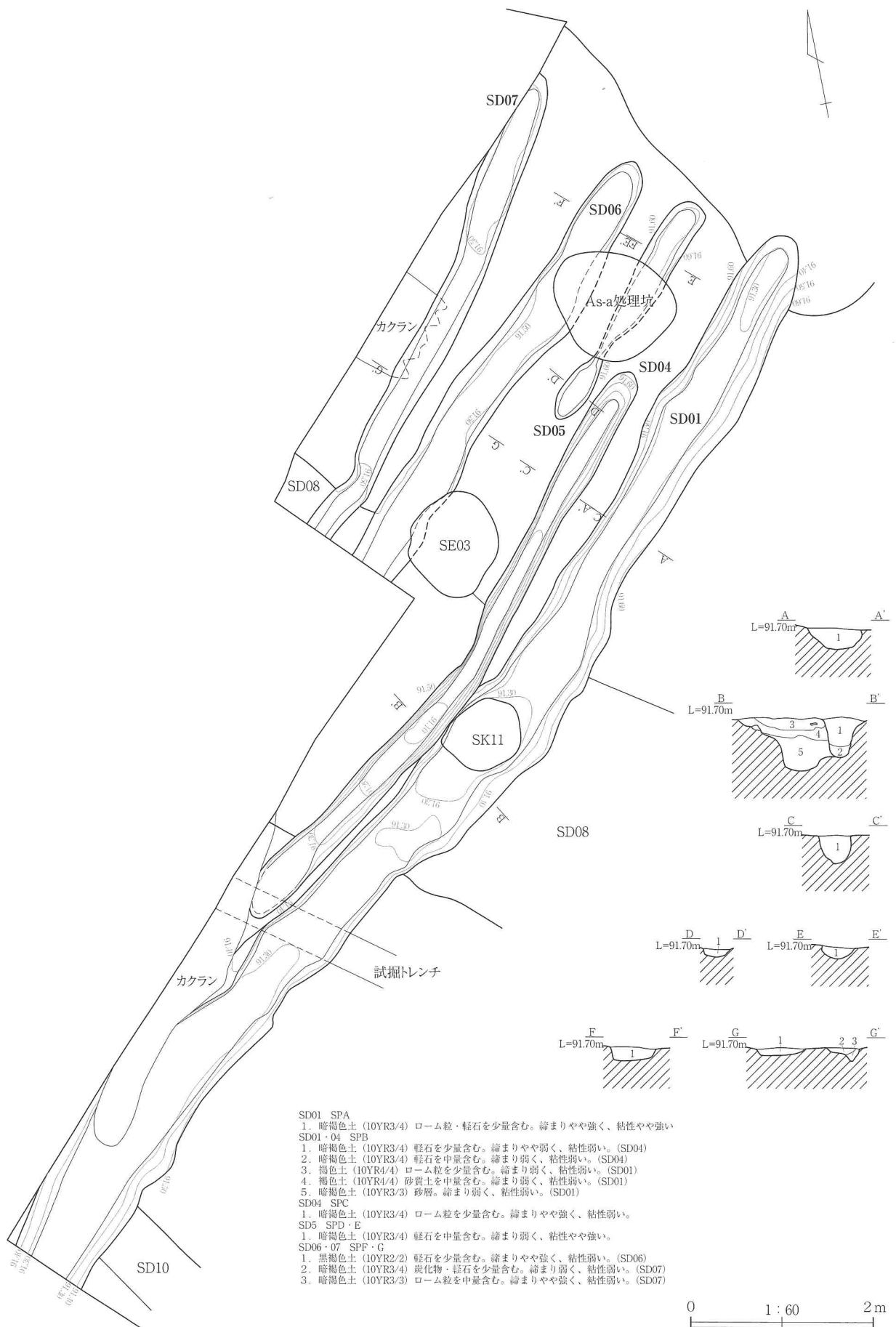
ピットは 9 口検出している。調査区のほぼ全域に散在しており、特に掘立柱建物として復元できるような配置も見られなかった。出土遺物については PT03 より土師器甕の小破片が 1 点出土しているのみである。所属時期については遺物がないため判然としないが、他遺構との覆土の対比から、PT01・08 が古墳時代前期末～中期前半、その他は中世・近世と想定される。

各遺構の詳細については計測表 (第 1 表) に記載しているので参照されたい。

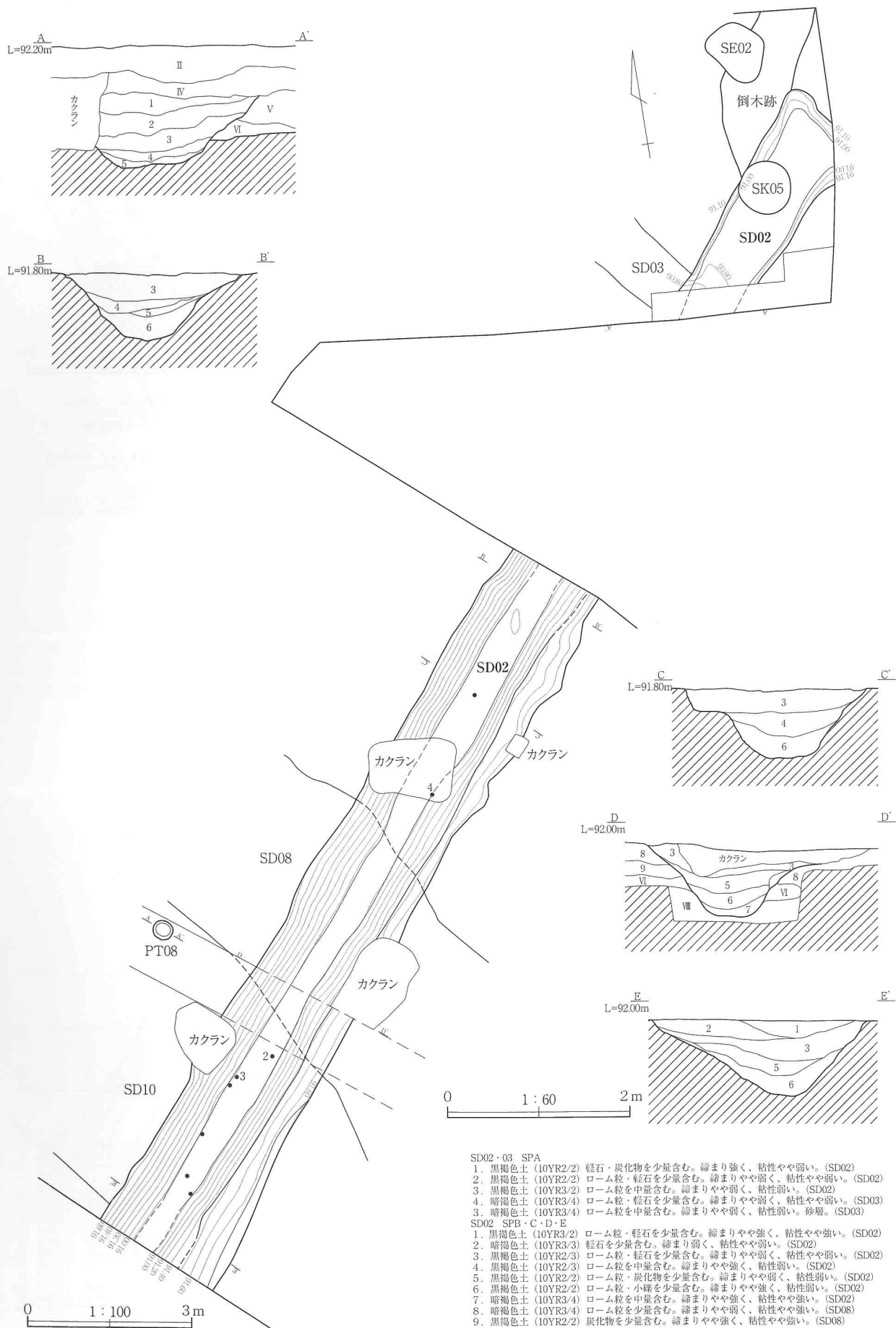
第 1 表 土坑・As-A 処理坑・井戸・ピット計測表

遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)
SK01	1.91	[1.39]	0.21	SE01	[1.30]	[0.75]	[0.62]
SK02	0.88	0.87	0.25	SE02	1.15	0.89	[0.50]
SK03	1.06	0.88	0.19	SE03	1.08	1.00	0.60
SK04	0.73	0.63	0.16	PT01	0.22	0.22	0.12
SK05	0.96	0.96	0.31	PT02	0.64	0.40	0.20
SK06	1.78	1.29	0.18	PT03	0.30	0.27	0.32
SK07	1.14	1.12	0.28	PT04	0.38	0.37	0.10
SK08	1.65	[1.44]	0.36	PT05	0.57	0.38	0.38
SK09	1.91	1.70	0.33	PT06	0.35	0.31	0.47
SK10	[1.27]	[1.15]	0.36	PT08	0.36	0.34	0.47
SK11	0.85	0.72	0.23	PT09	0.51	0.32	0.46
SK12	0.99	[0.91]	0.42	PT10	0.38	0.28	0.50
SK13	1.06	0.99	0.60				

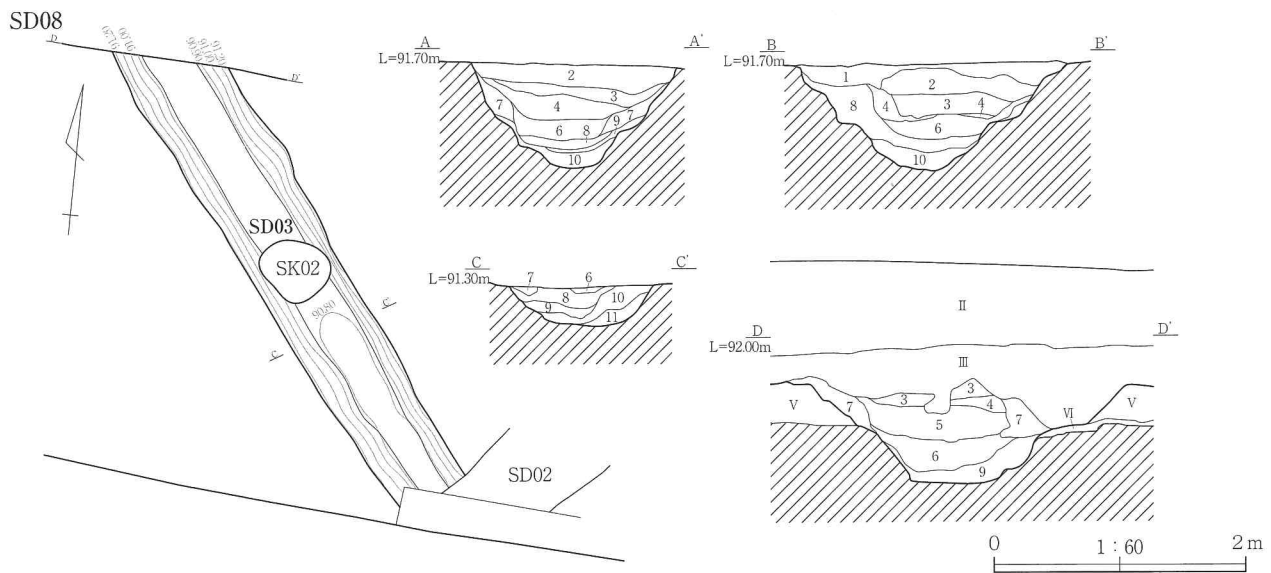
※ PT07 は欠番



第5図 SD01・04・05・06・07 平面図・断面図



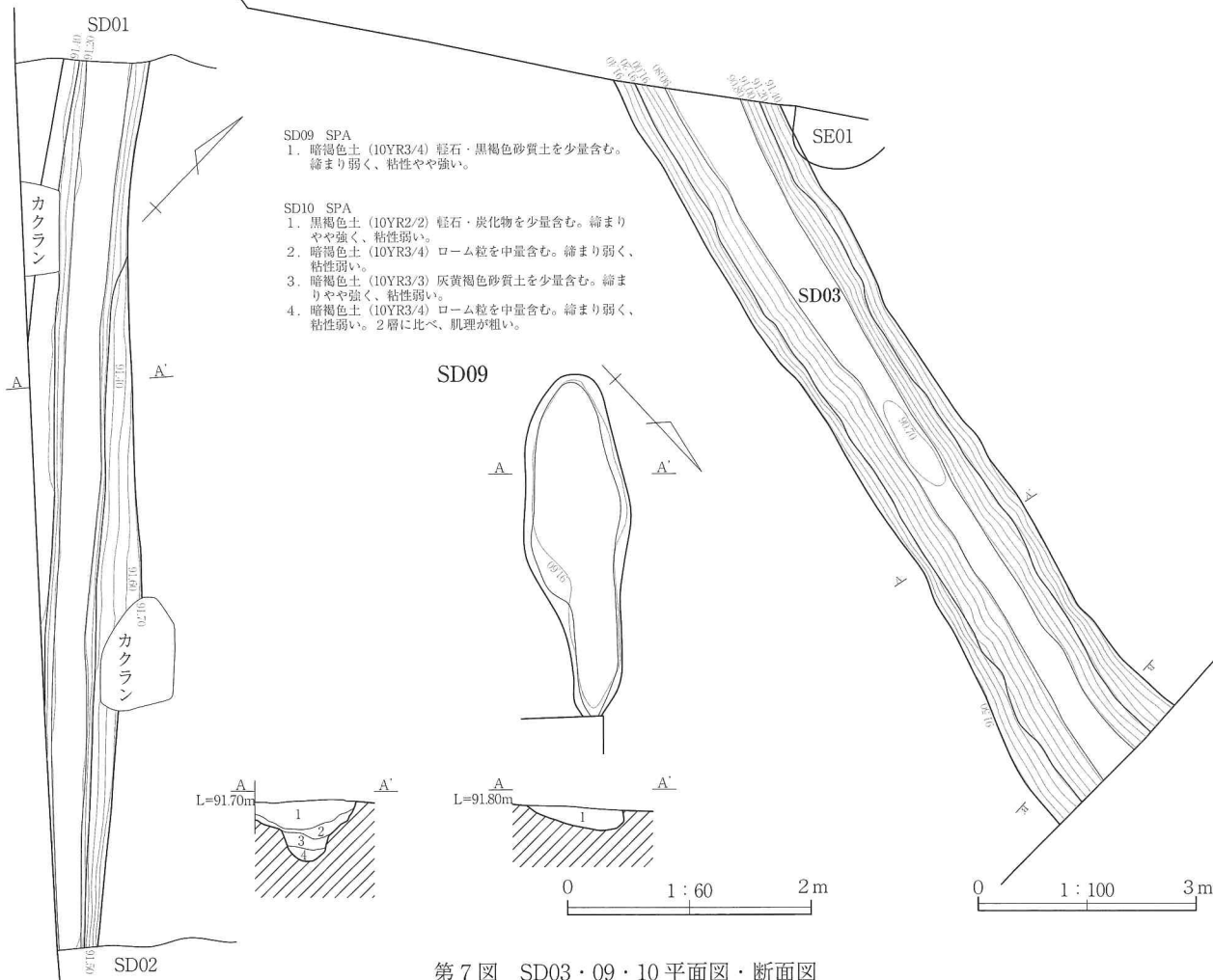
第6図 SD02 平面図・断面図



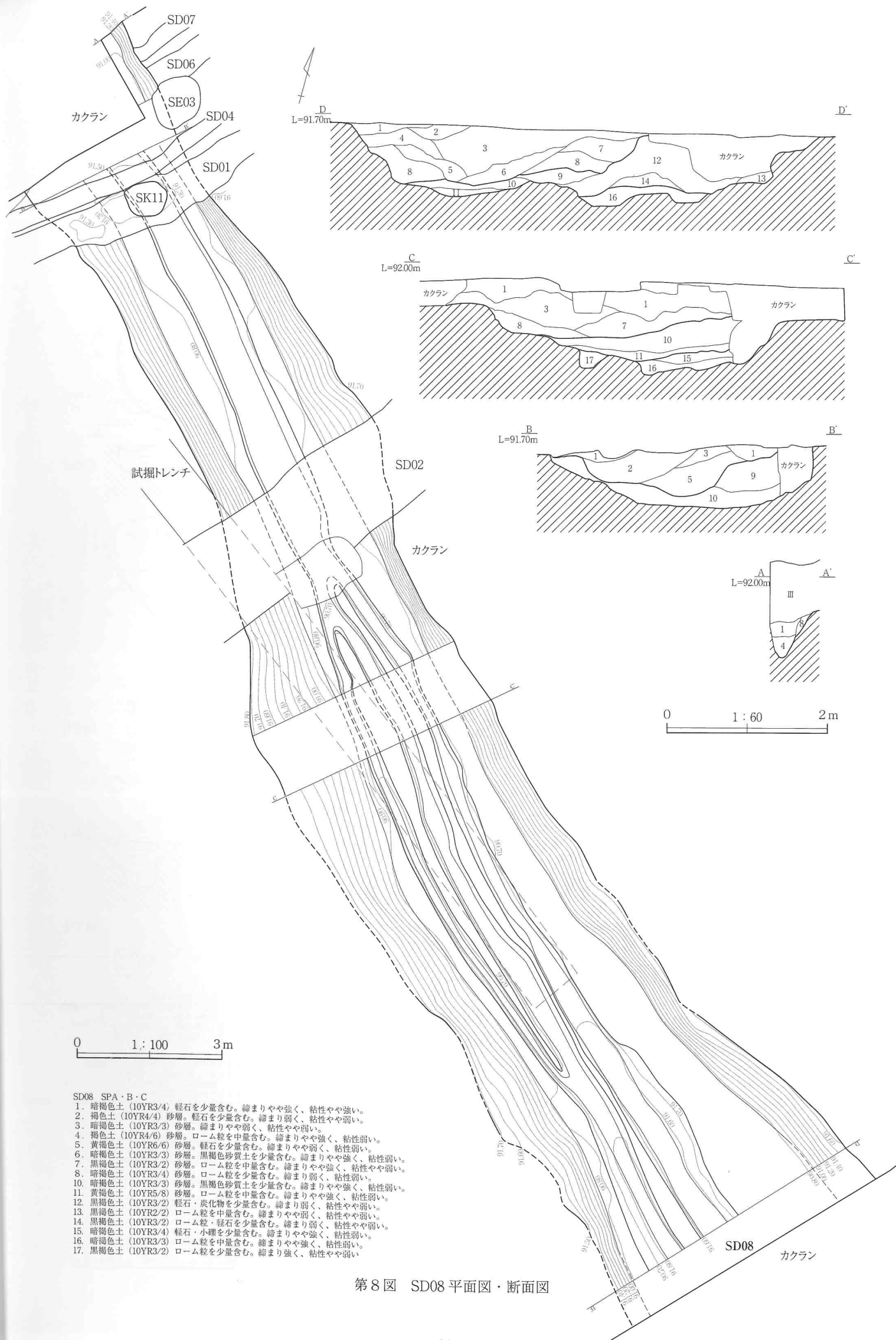
SD03 (SPA-SPD)

1. 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2. 暗褐色土 (10YR3/4) 軽石・小礫を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
3. 褐色土 (10YR4/4) 暗褐色砂質土を少量含む。締まり弱く、粘性やや強い。
4. 褐色土 (10YR4/6) 砂層。締まり弱く、粘性弱い。
5. 黄褐色土 (10YR5/6) 砂層。締まり弱く、粘性弱い。
6. 暗褐色土 (10YR3/4) 砂層。灰黄褐色粘質土を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
7. 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
8. 暗褐色土 (10YR3/3) 砂層。締まり弱く、粘性弱い。
9. 褐色土 (10YR4/4) ローム粒を中量含む。締まり弱く、粘性弱い。
10. 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・黒褐色砂質土を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
11. 褐色土 (10YR4/6) ローム粒を中量含む。締まりやや強く、粘性弱い。地山風化土。

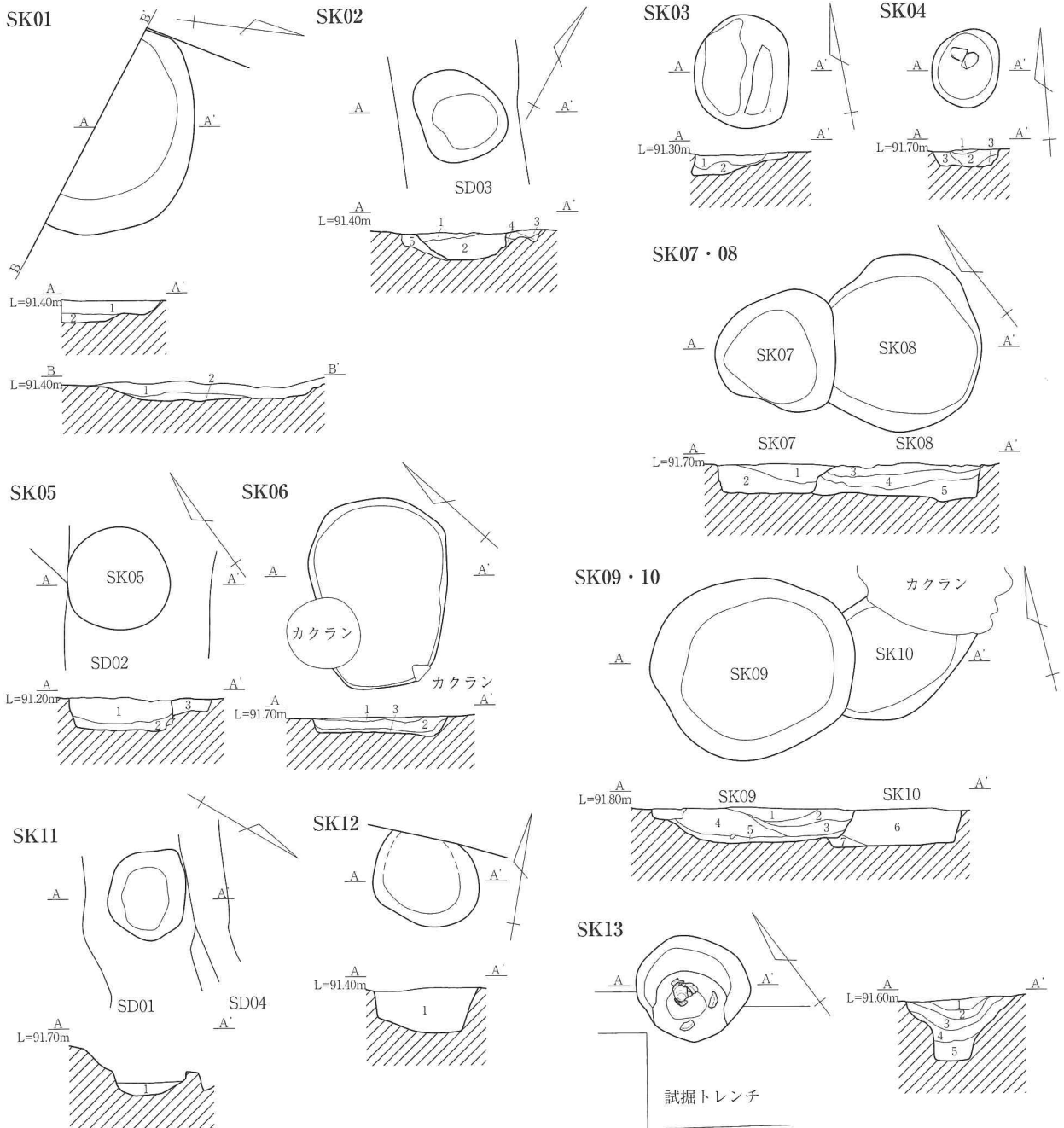
SD10



第7図 SD03・09・10 平面図・断面図

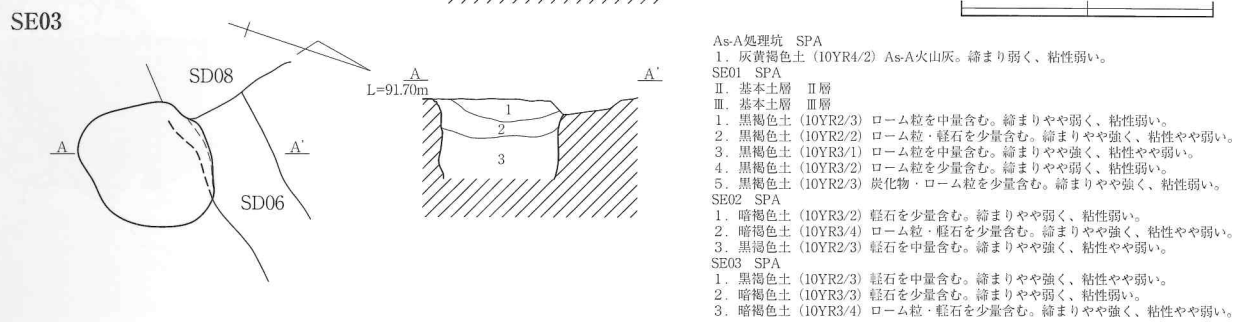
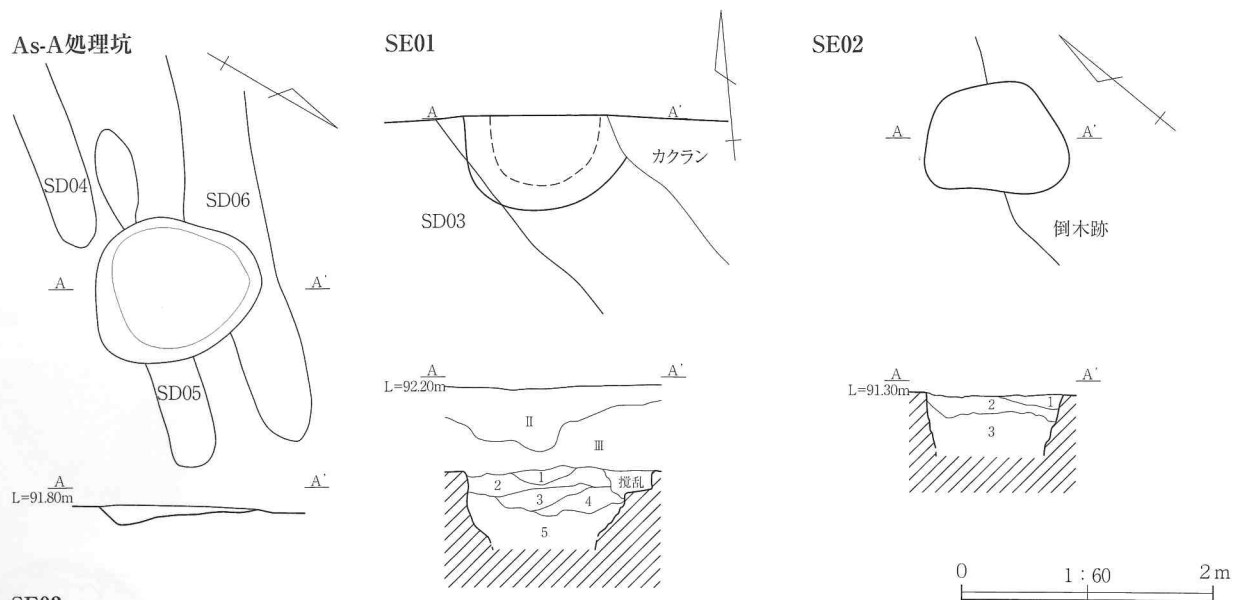


第8図 SD08平面図・断面図

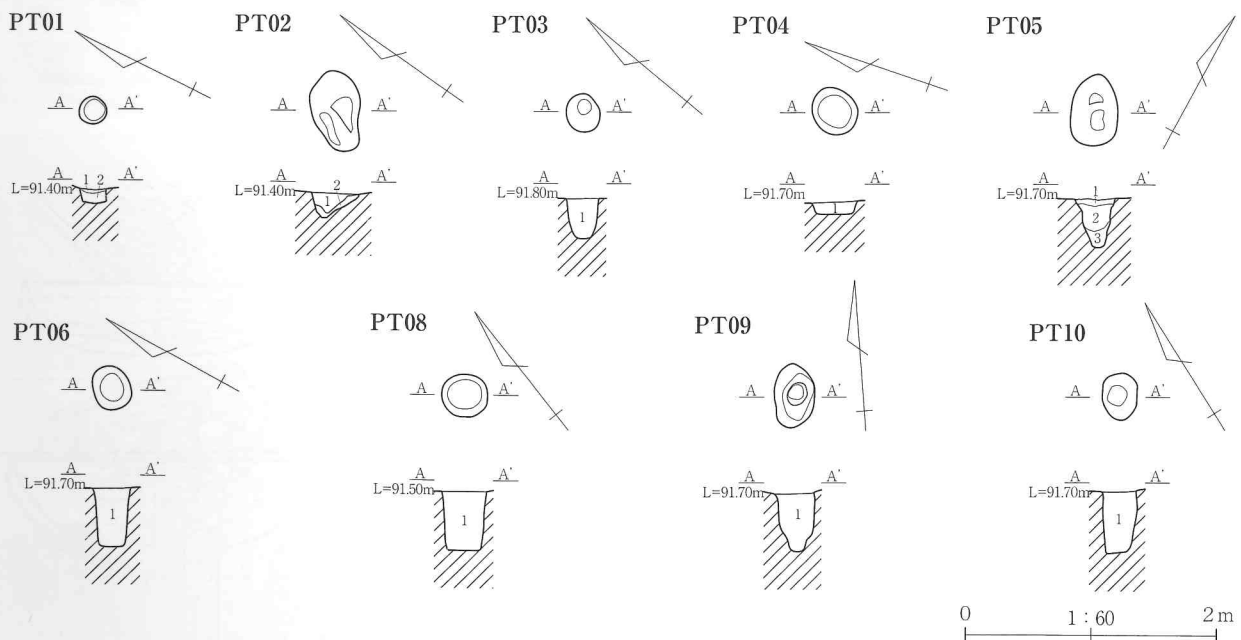


- SK01 SPA
1. 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒・軽石を中量含む。締まり弱く、粘性やや弱い。
- SK02 SPA
1. 黒褐色土 (10YR2/2) 砂質小ブロックを少量含む。締まり弱く、粘性弱い。(SK02)
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 赤褐色土を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。(SK02)
3. 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。(SD03)
4. 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒を中量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。(SD03)
5. 黄褐色土 (10YR4/3) 砂層。締まり弱く、粘性弱い。(SD03)
- SK03 SPA
1. 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒を中量含む。締まり弱く、粘性やや弱い。(SD02)
- SK04 SPA
1. 黒褐色土 (10YR2/2) 軽石を少量含む。締まり強く、粘性やや強い。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
3. 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
- SK05 SPA
1. 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒・軽石を多量に含む。締まり強く、粘性弱い。(SK05)
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 軽石を少量含む。締まり弱く、粘性やや強い。(SK05)
3. 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。(SD02)
- SK06 SPA
1. 黒褐色土 (10YR2/2) 軽石を中量含む。締まり強く、粘性やや強い。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒・軽石を中量含む。締まり弱く、粘性弱い。
3. 黒褐色土 (10YR2/1) 軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。地山風化土。
- SK07 SPA
1. 黒褐色土 (10YR3/2) 黄褐色ブロックを少量含む。締まり強く、粘性やや強い。(SK07)
2. 黒褐色土 (10YR3/1) 黒褐色ブロック・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。(SK07)
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(SK08)
4. 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。(SK08)
5. 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(SK08)
- SK07・08 SPA
1. 黒褐色土 (10YR2/3) 赤褐色ブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。(SK09)
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 黄褐色ブロックを少量含む。締まり強く、粘性弱い。(SK09)
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。(SK09)
4. 暗褐色土 (10YR2/2) 黄褐色ブロックを少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。(SK09)
5. 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒・マンガン質ブロックを少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。(SK09)
6. 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。(SK10)
7. 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。(SK10)
- SK11 SPA
1. 黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
- SK12 SPA
1. 黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒・軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性強い。
- SK13 SPA
1. 黒褐色土 (10YR2/2) 軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
2. 黒褐色土 (10YR2/1) 軽石を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
3. 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒を中量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
4. 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
5. 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒を少量含む。締まり弱く、粘性弱い。

第9図 SK01～13平面図・断面図



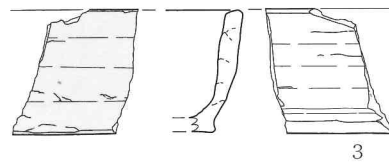
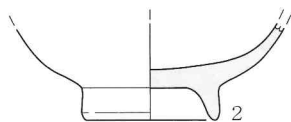
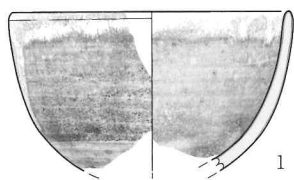
- As-A処理坑 SPA
1. 灰黄褐色土 (10YR4/2) As-A火山灰。締まり弱く、粘性弱い。
- SE01 SPA
- II. 基本土層 II層
- III. 基本土層 III層
1. 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒を中量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
3. 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒を中量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
4. 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
5. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物・ローム粒を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
- SE02 SPA
1. 暗褐色土 (10YR3/2) 軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
2. 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
3. 黒褐色土 (10YR2/3) 軽石を中量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
- SE03 SPA
1. 黒褐色土 (10YR2/3) 軽石を中量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) 軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
3. 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや弱い。



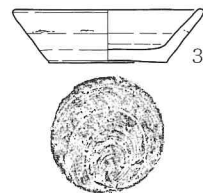
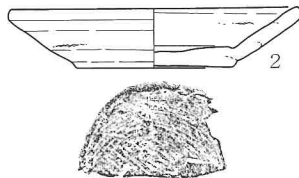
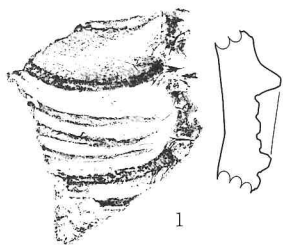
- PT01
1. 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒を中量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- PT02
1. 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒を中量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
- PT03
1. 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒を中量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
- PT04
1. 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性弱い。
- PT05
1. 黒褐色土 (10YR2/2) 暗褐色ブロック・軽石を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
3. 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
- PT06
1. 暗褐色土 (10YR3/4) 赤褐色ブロックを少量含む。締まり弱く、粘性弱い。
- PT08
1. 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒・軽石を少量含む。締まりやや強く、粘性やや強い。
- PT09
1. におい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。
- PT10
1. におい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒を少量含む。締まりやや弱く、粘性弱い。

第10図 As-A処理坑・SE・PT平面図・断面図

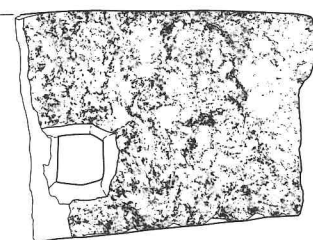
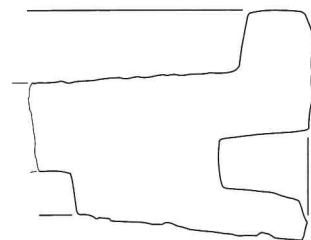
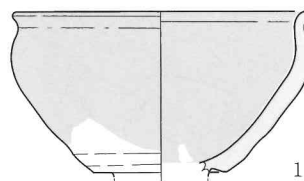
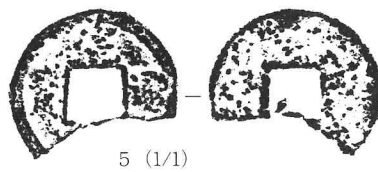
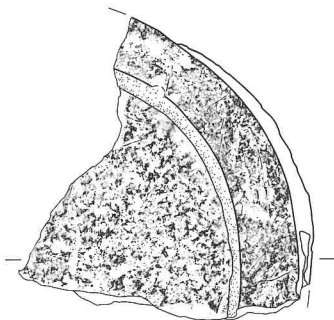
SD01



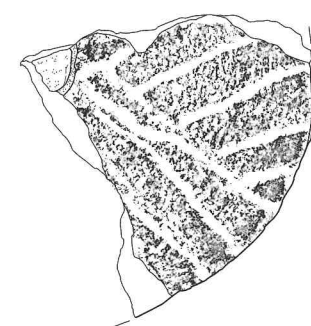
SD02



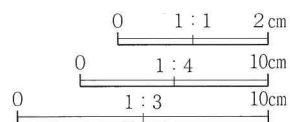
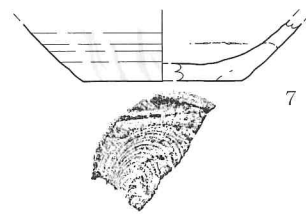
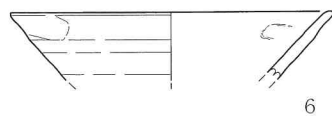
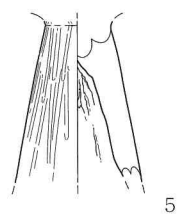
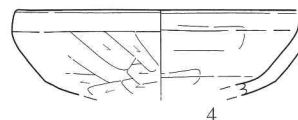
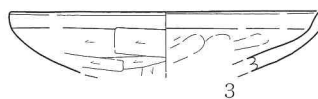
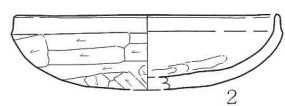
SD04



4 (1/4)

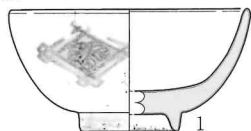


SD08

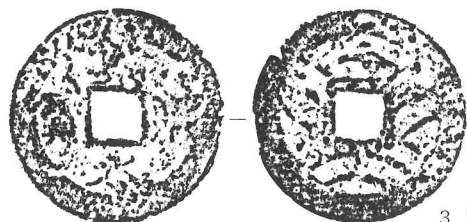
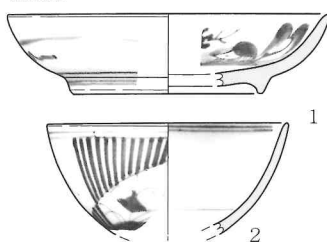


第 11 図 SD01・02・03・08 出土遺物

SK07

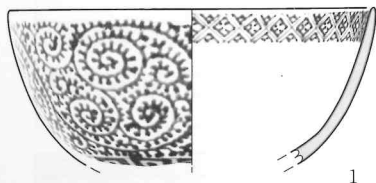


SK08

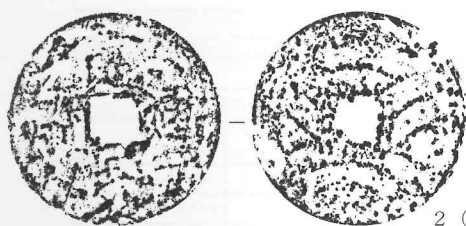
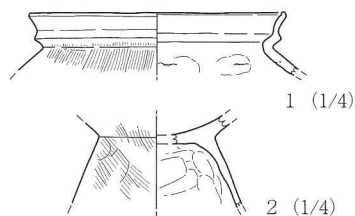


3 (1/1)

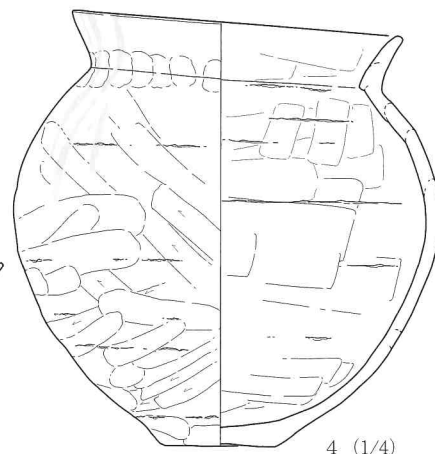
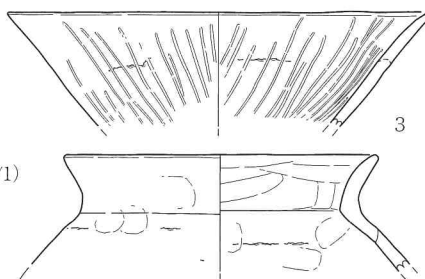
SK09



SK13

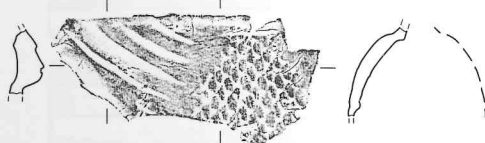
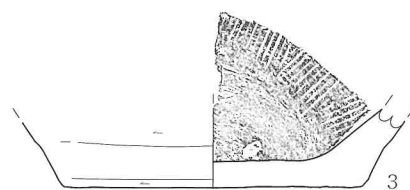
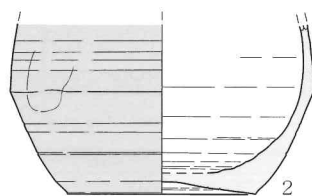
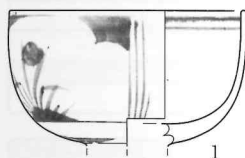


2 (1/1)



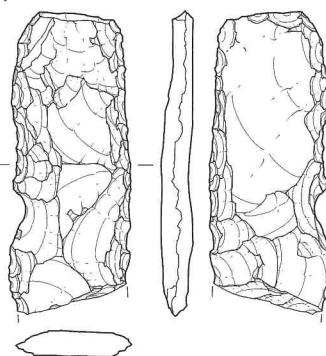
4 (1/4)

SE02

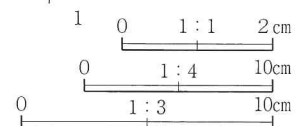
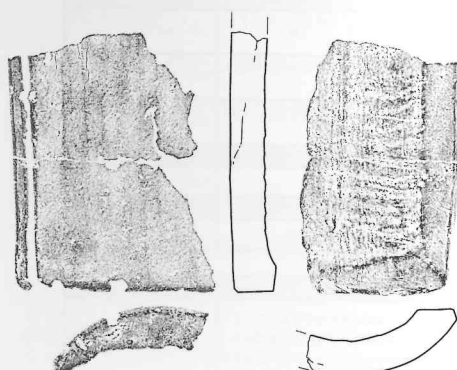


4

遺構外



5 (1/4)



第12図 SK07 ~ 09・13、SE02 出土遺物

第2表 出土遺物観察表

SD01

番号	出土位置	種別・器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・整形・文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	陶器 埴	[11.0]	—	(6.3)	黒色粒	堅緻	褐色	ロクロナデ、施釉。	口縁～腰部 1/3。
2	覆土	陶器 埴	—	[5.2]	(3.9)	黒色粒	堅緻	灰白色	ロクロナデ、施釉。	口縁～腰部 2/3。
3	覆土	瓦器 焙烙	—	—	4.9	白・黒色細粒	堅緻	外面：黒褐色 内面：にぶい黄褐色	ロクロ整形。内面に輪轆痕明瞭。	破片。

SD02

5502

番号	出土位置	種別、器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	縄文土器 漆鉢	—	—	(6.3)	白・黒・茶色粒・黒雲母	堅緻	灰黄褐色	除密内に横位沈澱3条充填。	胴部片。
2	覆土	かわらけ	[11.6]	[6.2]	2.4	赤色粒、雲母	やや軟質	灰黄褐色	ロクロナデ。底部回転糸切り。	1/4 残存。
3	覆土	かわらけ	[7.6]	[4.7]	2.1	赤・黒色粒、雲母	やや軟質	灰黄褐色	ロクロナデ。底部回転糸切り。	2/3 残存。
番号	出土位置	種別、器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	石質	重さ (g)	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考	
4	覆土	石製品 石臼	(16.0)	(15.1)	(12.0)	粗流安山岩	2363			上臼片 1/5。
番号	出土位置	種別、器種	直径 (cm)	孔径 (cm)	厚さ (cm)	材質	重さ (g)	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考	
5	覆土	金属製品 古銭	(2.2)	(0.7)	(0.1)	銅	1.1			2/3 残存。

SD04

番号	出土位置	種別・器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・整形・文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	陶器 天目茶碗	[11.6]	—	(6.5)	黒色細粒、長石細粒	堅緻	釉面：黒褐色 素地：にぶい黄褐色	ロクロ成形。高台部欠損。内外面施釉施釉。	1/4 残存。

SD08

番号	出土位置	種別・器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・整形・文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	土師器 坏	[11.0]	—	(2.4)	黒色粒、長石	良好	褐色	口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ヘラ削り。	口縁～底部片。
2	覆土	土師器 坏	[10.4]	—	(2.9)	黒色粒、雲母	やや軟質	褐色	口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ヘラ削り、底部内面ヨコナデ。	口縁～腰部 1/3。
3	覆土	土師器 坏	[12.3]	—	(2.4)	白色粒、雲母	良好	明褐色	口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ヘラ削り、底部内面ユビナデ。底部外面黒底。	口縁部 1/5。
4	覆土	土師器 坏	[13.3]	—	(3.8)	赤・黒色粒	良好	にぶい褐色	口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ヘラ削り、底部内面ヨコナデ。	口縁部片 1/6。
5	覆土	土師器 高坏	—	—	(6.4)	赤色粒、石英、長石	良好	にぶい褐色	外面ヘラミガキ、内面紋り痕。	胴部 1/2。
6	覆土	須恵器 坏	[12.8]	—	(2.7)	石英、長石	堅緻	黄灰色	内外面ロクロナデ。	口縁部 1/8。
7	覆土	須恵器 坏	—	[6.2]	(2.4)	黒色粒、長石	良好	褐色	口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ヘラ削り。	口縁～底部片。

SK07

番号	出土位置	種別・器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・整形・文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	磁器 染付碗	[9.4]	[3.8]	4.9	黒色粒	堅緻	灰白色	内外面施釉、染付絵。	1/2 残存。

SK08

SK06

番号	出土位置	種別、器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	磁器 染付皿	[12.8]	[7.5]	3.2	黒色粒	堅緻	灰白色	内外面施釉、染付絵。	1/5 残存。
2	覆土	磁器 染付碗	[9.5]	—	(4.4)	黒色粒	堅緻	灰白色	内外面施釉、染付絵。	口縁～腰部 1/4。
番号	出土位置	種別、器種	直径 (cm)	孔径 (cm)	厚さ (cm)	材質	重さ (g)	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考	
3	覆土	金属製品 古銭	(2.8)	(0.7)	(0.1)	銅	3.5	寛永通寶か。背面十一波。	完存。	

SK09

SR09

番号	出土位置	種別、器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	磁器 染付鉢	[14.4]	—	(6.2)	黒色粒	堅緻	灰白色	内外面施釉、染付絵大こ唐草。	1/3 完存。
番号	出土位置	種別、器種	直径 (cm)	孔径 (cm)	厚さ (cm)	材質		重さ (g)	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	覆土	金属製品 古銭	(2.8)	(0.6)	(0.2)	銅		4.3	寛永通寶か。背面十一波。	完存。

SK13

番号	出土位置	種別・器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・整形・文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土中	土師器 S字壺	[13.5]	—	(3.3)	赤・黒色粒、雲母	良好	灰黄褐色	口縁部内外面ヨコナデ。肩部外面ヘラナデ。肩部内面指頭圧痕。	口縁部 1/6。
2	覆土中	土師器 S字壺	—	—	(4.9)	石英、長石、雲母	良好	にぶい褐色	外面ヘラナデ後縦位ユビナデ。内面ユビナデ、指頭圧痕。	胴部 1/3。
3	覆土中	土師器 高坏	[16.8]	—	(4.5)	赤色粒、石英、長石	やや軟質	褐色	内外面ヨコナデ後ヘラミガキ。	口縁部 1/6。
4	覆土中	土師器 壺	17.6	5.8	23.1	石英、長石、雲母	良好	にぶい黄褐色	口縁部内外面ヨコナデ。肩部外面指頭圧痕列。胴部外面ヘラ削り、後ナデ。内面ヘラナデ。口縁～胴部上半外面に吹きこぼれ痕。	完存。
5	覆土中	土師器 壺	[16.6]	—	(6.2)	石英、長石、雲母	良好	灰黄褐色	口縁部内外面ヨコナデ。肩部外面指頭圧痕列。胴部内外面ユビナデ。	口縁部 1/3。

SE02

番号	出土位置	種別・器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・整形・文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土中	磁器 小碗	[9.4]	—	(4.4)	黒色微細粒	堅緻	染付：暗青灰色 釉面：透明	ロクロ成形。高台部欠損。外面草・花・文様。	口縁～腰部 1/4。
2	覆土中	陶器 徳利	—	7.4	(6.7)	粘土質	堅緻	外面：褐色 内面：灰黄色	ロクロ成形。底部回転ヘラナデ。腰部中に凹みを有す。外面施釉施釉。	腰部～底部 1/2。
3	覆土中	陶器 搦鉢	—	(15.8)	(4.1)	白・黒色粒	堅緻	外面：暗赤褐色 内面：灰黄色	ロクロ成形。後回転ヘラナデ。底部回転糸切り。 内外面鉄釉施釉、胎花	底部片。
番号	出土位置	種別・器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・整形・文様等の特徴	残存状況・備考
4	覆土中	土製品 鳥	[9.4]	—	(4.4)	黒色粒、長石	良好	にぶい黄褐色	壓型した後接合。	腰部片。
番号	出土位置	種別・器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・整形・文様等の特徴	残存状況・備考
5	覆土中	丸瓦	—	7.4	(6.7)	黒色粒、長石	やや酸化腐	暗灰黄色	凸面：縦位ヘラナデ。凹面糸引き切り痕、周縁ヘラナデ。	左下破片。

遺構外

番号	出土位置	種別・器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	石質	重さ (g)	器形・成・整形・文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土中	石器 打製石斧	[9.4]	—	(4.4)	ホルンフェルス	94.2	厚手の横長割片を素材に用いる。表面やや粗い成形剥離が全体に施され、さらに左右側縁下半にノッチ部を有し、右側縁の調整剥離は比較的に丁寧である。下刃部欠損。表面はやや細かい周縁調整剥離が施されている。上部に磨光痕を有し、欠損した刃部同様に鋭利な左右側縁を刃部として使用したと考えられる。	刃部欠損。

VI まとめ

今回の上中居・西屋敷遺跡における第4次調査では、溝10条、土坑13基・As-A処理坑1基、井戸3基、ピット9口を検出し、遺構の時期は古墳時代・古代を一部含むが、主に中世・近世が中心となる。遺物は縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器類といった、縄文時代から近世に亘る遺物が出土している。なお、今回の調査では住居跡の確認には至らなかったが、これは本遺跡が前橋台地西部の井野川泥流により形成された微高地上の縁辺部に当たることが遠因となっている可能性を指摘でき、微高地上の中央部での集落域の展開が示唆される。

個別遺構の詳細については前章にて記しているのもので、ここでは本遺跡で確認した主要な遺構・遺物を時期別に概観・検討し、まとめとしたい。

縄文時代・弥生時代

今回の発掘調査においては、弥生時代以前に該当する遺構は確認できなかったが、後世の遺構覆土からは縄文土器や打製石斧等が出土している。また、本調査の前段階である高崎市教育委員会による試掘調査において、弥生時代後期の樽式土器が確認されており、縄文時代から弥生時代に至るまでの遺構が本遺跡周辺の微高地上に存在する可能性が高いと言える。

古墳時代

本遺跡において遺構が確認できるのは古墳時代からであり、SK13が該当する。この遺構の出土遺物からは、S字口縁甕、土師器甕、内外面にミガキを施し外傾する口縁を持つ高坏等を確認しており、遺物の特徴や組み合わせから、遺構の時期は古墳時代前期末から中期前半と考えられる。

また、遺物は伴わないものの他遺構との覆土の対比から、SK13と酷似する黒褐および暗褐色土の覆土が見られ同様の時期を想定できる遺構として、SK01、PT01・08を挙げることができる。

奈良・平安時代

奈良・平安時代での遺構・遺物は他時期に比べても減少する。その中で、調査区南側で検出したSD08は注目される。この遺構は調査区南側で検出し、最大幅約5.8m、深さ約1.0mと大規模なものであり、前章の個別記載でも記したが、土層の堆積状況等から3段階に分けることができる。断面箱型の小規模な溝が2・3条の初期段階、不整形な台形状を呈する中段階、緩やかなU字状を呈する最終段階の3段階での掘削を復元できる。その中で、最下層では7世紀代の土師器坏が多く出土しており、また、中世・近世と考えられる他の溝（SD01・02・04）に先行することから、新しくとも初期段階における開鑿は古代にまで遡る可能性が高いものと考えられる。さらに、重複関係がなく詳細な前後関係は不明ながら、調査区北側で検出したSD03もSD08と同様の規模・覆土を持ち、古代の開鑿を想定できる遺構である。

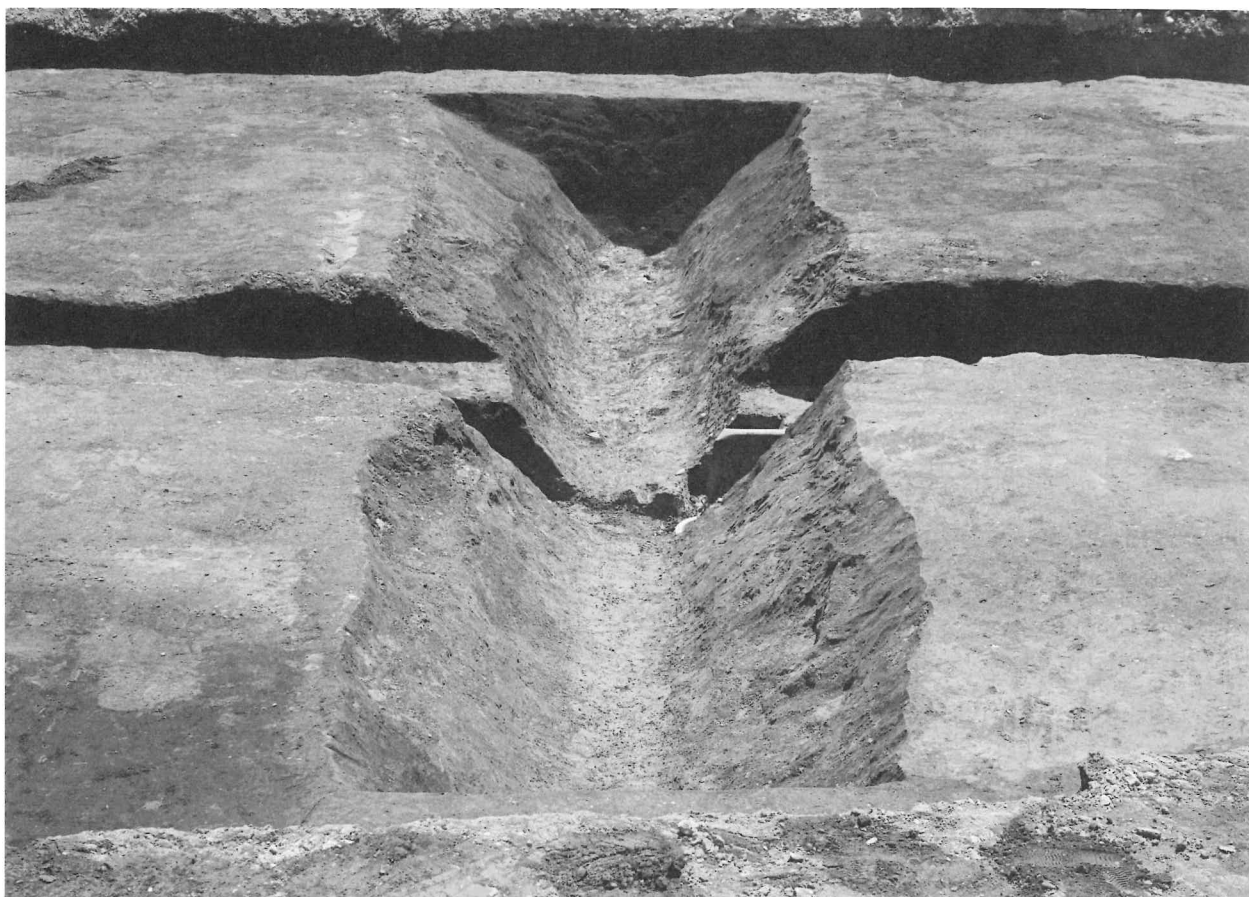
また、現在、調査区の北側には矢中堰が東流している。これは烏川を水源とする長野堰が高関町で倉賀野堰・地獄堰・矢中堰に分流したものの1つであり、SD03・08はこの矢中堰と走行方向がほぼ一致しており、古い段階での矢中堰の流路である可能性が指摘される。なお、発掘調査された周辺の遺跡では、上中居早道場での7号溝が重複関係・規模等からSD03・08に繋がる可能性も考えられるが、詳細な時期が不明であるため、周辺での発掘調査の成果の蓄積を通して、さらなる検討が必要である。

中世以降

中世以降になると遺構・遺物数ともに増加し、調査区全体から検出しており、本遺跡の主要時期となる。主な



調査区全景（上が西、2回分を合成）



SD02全景（北から）



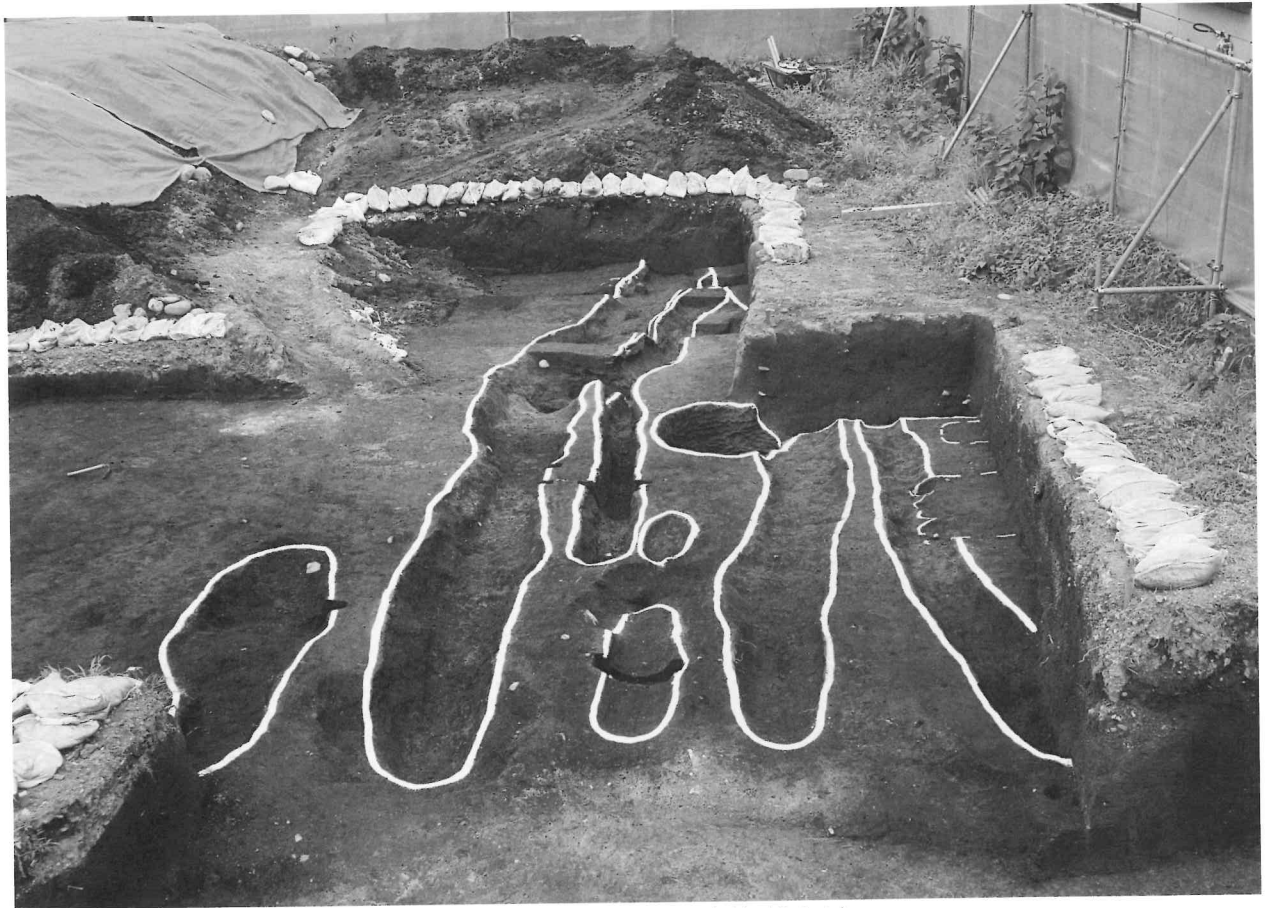
SD03全景（東から）



SD08全景（東から）



SD08底部近景（東から）



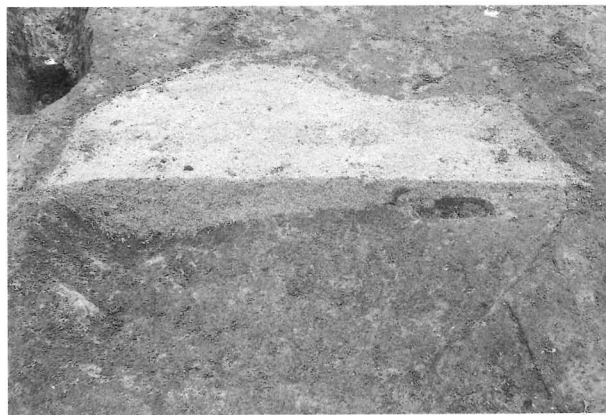
SD01・04・05・06・07・09全景（北から）



SD10全景（西から）



As-A 処理坑全景（北から）



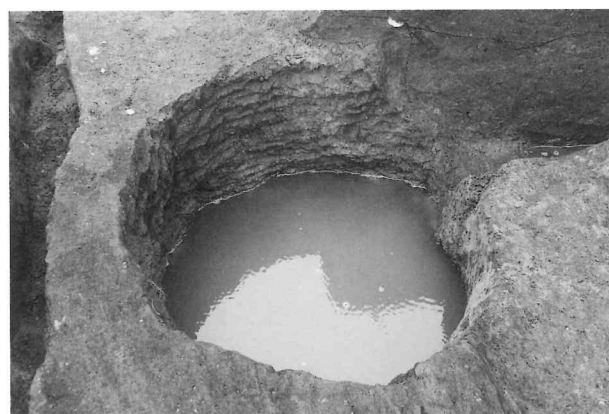
As-A 処理土層断面（北から）



SE01全景（南から）



SE02全景（南から）



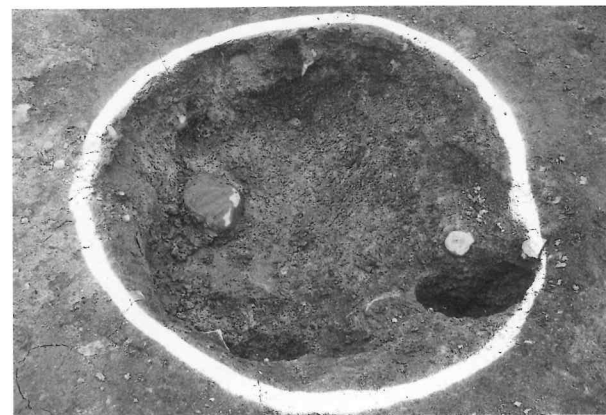
SE03全景（北から）



SK01全景（北から）



SK02全景（南から）



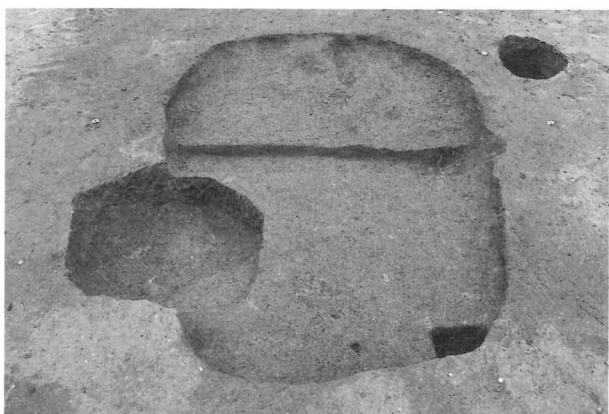
SK03全景（南から）



SK04全景（南から）



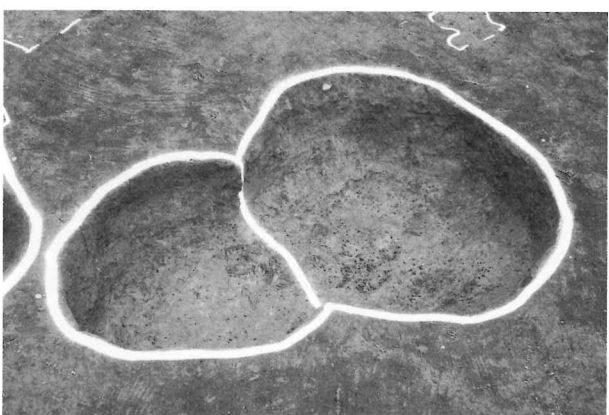
SK05全景（南から）



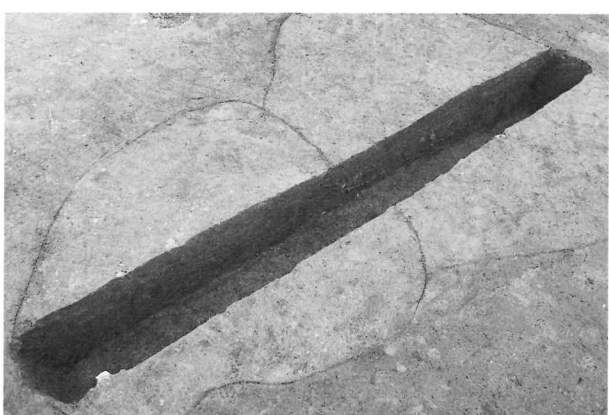
SK06全景（南から）



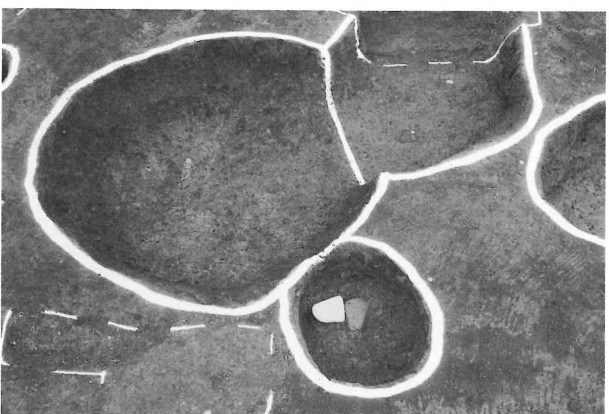
SK07全景（南から）



SK07・08全景（南から）



SK07・08土層断面（南から）



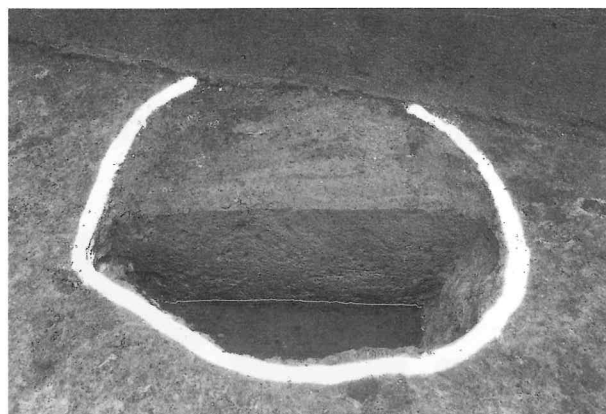
SK09・10全景（南から）



SK09・10土層断面（南から）



SK11全景（南から）



SK12全景（南から）



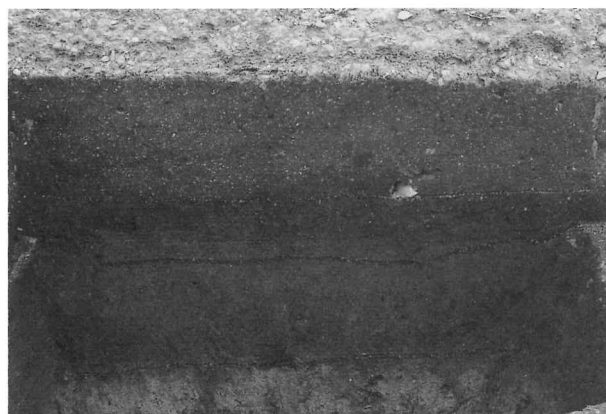
SK13全景（南から）



SK13遺物出土状況（南から）



基本土層A（西から）



基本土層B（北から）



作業風景



作業風景



報告書抄録

ふ り が な	かみなかい・にしやしきいせき 4
書 名	上中居・西屋敷遺跡 4
副 書 名	複合施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	－
シ リ ー ズ 名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第300集
編 著 者 名	山田誠司
編 集 機 関	技研測量設計株式会社
編集機関所在地	〒371-0031 群馬県前橋市下小出町 1-15-3
発 行 機 関	高崎市教育委員会
発行機関所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35-1
発 行 年 月 日	2012年 9 月28日

ふ り が な	ふ り が な	コ ー ド		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号	北 緯	東 経			
かみなかい にしやしきいせき 上中居・西屋敷遺跡 4	たかさき し かみなかい まちあざにし 高崎市上中居町字西 やしき 屋敷225-1、225-5	102020	541	36° 19'5	139° 1'48	20120531 } 20120928	552m ²	複合施設建設

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物	特 記 事 項
上中居・西屋敷遺跡 4	城館跡	縄文 古墳 古代 中近世	なし 土坑 2基 ピット 2口 溝 2条 溝 8条 As-A 処理坑 1基 井戸 3基 土坑 11基 ピット 7口	縄文土器・石器 土師器 須恵器・土師器 かわらけ 陶磁器 土製品 石製品	古代の流路。 反町城の堀跡。

高崎市文化財調査報告書第 300 集

上 中 居 ・ 西 屋 敷 遺 跡 4

2012年 9 月24日 印刷

2012年 9 月28日 発行

発行

高崎市教育委員会

〒370-8501 群馬県高崎市高松町35-1

TEL 027-321-1292

編集

技研測量設計株式会社

印刷

朝日印刷工業株式会社